

学校経営品質を考える

— 成功の実現のために —

開倫塾
塾長 林 明夫

1. はじめに——私の問題意識——

(ア) 日本の教育の失敗——「勉強しない高校生」——

(a) 日本の高校生の平日の家庭学習時間の少なさ

(i) 家庭学習時間がほとんどなしが半数。

(ii) 1 時間半以下が 8 割。

(iii) 2 時間以上は 2 割。

(b) それでいて高校卒業後、専門学校、専修学校、短期大学、4 年制大学などの上級学校への進学が 74% 以上。

(i) 大学生等の最大の問題は、高校卒業までに身に付けているはずの基礎学力不足。

(ii) 基礎学力が身に付いていないため大学等の授業についていけない、授業がわからない。大学等でもそれを容認したまま卒業させてしまう。公官庁や企業は財政状況が厳しく採用を手控えているため、学力不足のまま大学等を出る人ほどフリーター化。

(c) 商業高校の就職希望者で就職できるのは成績優秀者のみ。

(i) 就職できなくて専門学校・短大・大学等の上級学校へ進学。

① 高校生のときに余り勉強していなかったため、上級学校では完全に落ちこぼれ、退学。

② たとえ卒業しても、学力不足のために職業ができずフリーター化。

③ ここでも就職できず、又、専門学校への進学を繰り返す。

(ii) 高校卒業後就職できなくてフリーター化。

(イ) そこで「勉強する高校生」をどうつくるかが、日本の教育の最大の課題。

(a) 高校教育の担い手である高校の先生方が、子どもたちの未来のため、高校卒業後の成功の実現のため、立ち上がる以外に解決策はない。

(i) なぜ高校生は勉強しなければならないのか、勉強の動機付け。

(ii) 人生の意味、働くことの意味、勉強しつづけることの意味をどのように教育するか。

① 高校生は新聞を毎日 1 時間以上読んで考えよう。

② 幅広い読書に励み、深く深く考えよう。

③ 地域社会で活躍する人々をどんどん学校に招き、毎週でも話を聴こう。「サービス業」「福祉」など商業高校卒業生が将来活躍したい職場からプロを招きお話を聞こう。

④ インターンシップを最大限活用しよう。

(b) 高校卒業後就職できても果たして働きつづけることができるのか。数年以内に退職する人が多い。なぜか。

(i) 「雇われる能力」(employability エンプロイアビリティ)が不足するため。これは高校生を送り出す高校側の問題。

(ii) 「雇う能力」が不足するため。これは高校生を受け入れる雇用側の問題。

(iii) 高校側と雇用側がこの高校卒業者退職問題についての原因究明と対策立案のための「高校と企業の連携」を強烈に押し進めるべし。

(iv) その結果今までの高校教育で不足することがあれば、どうそれを補うか考え、実際に就職希望の生徒に即実施すること。

(c) 就職できず「フリーター」化した卒業生は、フリーターを一生繰り返し、経済的に困難な一生を送らざるを得ない可能性が高い。「フリーター」は、高校教育の失敗と考え、放置することなく「アフターサービス」として、自らの教え子に対し再教育を行うべし。

(d) 大学等の上級学校への進学者で、進学後、学力不足が原因で授業等についていけない可能性が高い人には、不足する学力を身に付けさせるため、進学先が決まってから高校3年生の3月31日まで、責任をもって教育すべき。それでも不足の場合には、入学後も、折に触れありとあらゆる手段を講じて指導すべし。大学連携の強化

(ウ) プロフェッショナル(専門職)としての先生には、結果を出すことが求められる。

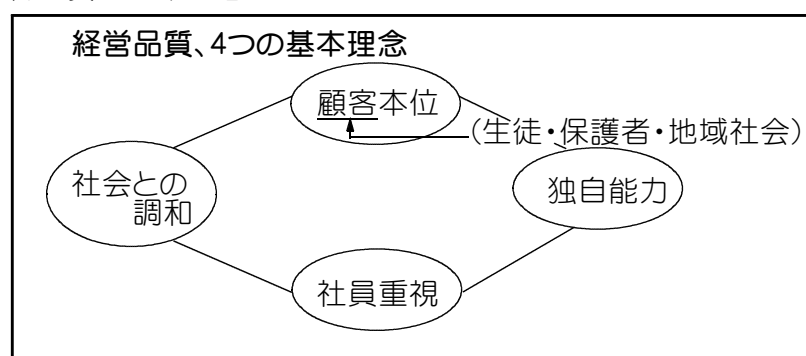
(i) 「生徒の学力」に対して責任を取ること、つまり「結果を出すこと」。

先生としての使命感をもって「一所懸命」(一つの所に命を懸ける)取り組むべし。

(ii) 「学校経営品質」の取り組みは「結果の出せる商業高校での教育」つまり、「高校教育の成果を生かした高校卒業後の生活」を実現、「高校生の成功の実現」に直結する。

2. 「学校経営品質」向上にむけて

(1) 経営品質の基本理念



(2) 社員(教職員)重視——「雇用維持の前提条件」——

(i) 商業高校の教職員としての employability(エンプロイアビリティ・雇われる能力)とは、

(a) トップマネジメントとしての employability

(b) ミドルマネジメントとしての employability

(c) 一般教職員としての employability

(ii) 共通して求められるのは「経営学」の深い理解による empowerment(エンパワーメント。能力強化による権限委譲)

(a) 「経営品質賞」のセルフアセスメント基準書をテキストに経営学の基本的な勉強を徹底的

に行い、empowerment(能力強化による権限委譲)をはかること。

(b) 商業高校の教職員にとり「経営学」の深い理解は避けて通れない。

① 先生が経営学を身に付けなくて、サービス産業を担う生徒の教育はできない。

② 担当する科目だけ身に付けていればよい時代は終わった。

③ 「商業」とは「ビジネス」とりわけ「サービス業」を意味する。

④ 労働生産性の低い労働集約型の「サービス産業」のイノベーション(INNOVATION、改革)をすすめ、どうサービス業の生産性を高めるか。

⑤ 学校経営品質に真正面から取り組み、商業高校の教職員もサービス業の(INNOVATION)イノベーションの担い手を目指そう。

⑥ アセスメント基準書に出てくる一つ一つの経営学の基本概念を基礎から徹底的に勉強し、生徒への教育に応用すること。高校生に勉強しなさいと言う前に、自らも勉強を。

(3) 独自能力

(ア) 競合比較

(イ) ベストプラクティスのベンチマーキング

(a) 社内(校内)ベストプラクティスのベンチマーキング

(b) 同業者(三重県内、日本国内、世界の高等学校)のベストプラクティスのベンチマーキング

(c) 異業種のベストプラクティスのベンチマーキング

〈例〉「西武文理大学」のめざすもの——大学ですらここまでやっている——

① あいさつ日本一

② 出席日本一

③ 服装日本一

(ウ) イノベーション、イノベーション、イノベーション

① 実験

② 修正

③ 日々是改革

(エ) 組織としての empowerment(能力強化)をめざす。

(4) 顧客本位

(ア) 生徒の本当に身に付けなければならないものをプログラムを組んで教育を

(a) 躰(しつけ)

(i) 美しい立居い振舞い(たちいふるまい)

(ii) 敬語表現を含む言葉遣い(ことばづかい)

(b) 自己学習能力——「教育ある人」(Educated Person) —生涯勉強しつづける人——

(i) 新聞を毎日読んで考える力

(ii) 本を読んで深く考える力

(iii) 図書館の使い方

(iv) 辞書の引き方

(v) 講義(人の話)の聴き方 ——「お口にチャック」 高校生のうちに徹底を——

(vi) メモの取り方

(vii) 文字を正確に楷書で書けるようにすること。

(c) 規範教育

- (i) 法令違反はしない
- (ii) 社会のルールを守る
- (iii) 男女の付き合い方の教育も

〈例〉①保護者不在の時には訪問しない。

②保護者がいる時でも、部屋のドアは開けておく。

(d) 消費者教育

- (i) 収入の範囲内で支出を — 「小遣い帳」 —
- (ii) お金で失敗せず一生を心豊かに暮らすには

(e) 「サービス産業」教育

- (i) 小さな会社(事務所)で働く
 - ①一般社員として
 - ②マネジャーとして
 - ③経営者として
- (ii) 大きな会社(チェーンストア)で働く
 - ①一般社員として
 - ②マネジャーとして
 - ③経営者として
- (iii) 職業は人間を鍛える

(f) 社会のためにも生きること

3. おわりに — Bright Eye Theory —

(ア) 先生が目が輝けば生徒が目が輝く。生徒が目が輝けば勉強に励むようになり成績は向上。成績が向上すれば、人生における選択肢(せんたくし)が増える。人生 110 歳の時代を迎えた今日、死の直前まで選択肢の多い人生を送ることが素晴らしい。

(イ) どうか、先生方のお力で、生徒の目を輝かせて頂きたい。そのためには先生方自らが自分の力で自分の目を輝かせることが先決。そのために先生が「経営品質」の勉強を。

(ウ) 「歴史における個人の役割」という小さな本が岩波文庫にあった(プレハーノフ著)。先生方は一人ひとりの生徒の人生、つまり生徒の歴史において大きな役割を果たしている。先生としての使命(mission、ミッション)を忘れることなく志(こころざし)を高く持ち続け、教え子への教育に当たって頂きたい。「勉強する高校生」と、高校卒業後も先生の姿を思い浮かべながら一生勉強し続ける「教育ある人」を一人でも多くおつくり頂きたい。

(エ) そのための「しくみ」づくり組織としての empowerment(能力強化)を「学校経営品質」の取り組みを通して行うことを祈念申し上げます。がんばりましょう。

感謝